

所属	リハビリテーション学研究科 リハビリテーション学専攻 修士課程	修了年度	平成 28 年度
氏名	矢谷 観輝恵	指導教員 (主査)	會田 玉美

論文題目	作業療法士の雰囲氣的リーズニング －構成概念の検討－
------	-------------------------------

本文概要	
<p>緒言：作業療法士（以下、OTR）の臨床的リーズニング（以下、CR）は、2007年に長谷らの先行研究により、発達障害領域のOTRが障害児の治療的雰囲氣を肯定的な方向に導こうとする「雰氣的リーズニング（Atmospheric Reasoning）」（以下、AR）の存在が言及されている。しかし長谷らの研究報告後、AR また同じ意味を持つ OTR の CR に関する研究はみられていない。また国内外の先行研究から、OTR の CR に重要な側面として、暗黙知の存在が示唆されているが、長谷らの CR の文献研究では「わが国の作業療法が CR の概念と作業療法における価値に対して関心を示した研究が少ない」ことに言及し、「作業療法士が持つ豊富な暗黙知の蓄積を基盤とした CR への関心の低さ」を述べている。</p> <p>目的：OTR にみられる AR の項目を作成し、AR の構成概念を暗黙知の側面から検討した。また OTR が臨床で行っている AR の具体例を集めて分析し、項目作成結果から検討された内容を確認した。</p> <p>方法：対象者は臨床経験 10 年以上の OTR46 名とした。AR の仮項目は作業療法理論、先行研究を基に 25 項目作成し、Delphi Process に準拠してアンケートを実施し項目を作成した。また項目案に同意し難い理由を自由記述方式で求めた。AR の具体例は自由記述方式で収集し、テキストマイニング手法で結果の分析を行った。</p> <p>結果：Delphi Process の分析の結果、AR の 16 項目にコンセンサスが得られた。AR の具体例をテキストマイニングにより分析した結果、《会話》－《作業療法》、《会話》－《対象者》、《会話》－《切り替える》、《会話》－《表情》（《》内はカテゴリ名）に結びつきがみられた。</p> <p>考察：作成された AR の項目と研究対象者から得られた項目案に同意し難い理由から、経験のある OTR が用いる AR の特徴として、1) 鍛錬された観察能力、2) 環境調整で間接的な支援をすること、3) 治療関係を保つこと、4) 作業から気をそらすこと、5) 患者の自発性を尊重すること、6) 安易に励まさないことが考えられた。テキストマイニング手法による分析結果から、患者と会話しながら、即興的に作業を切り替える OTR の AR の特徴が確認できたと考えた。</p> <p>結語：16 の AR 項目が作成され、AR には暗黙知の側面から 6 つの特徴があること、また AR は OTR の豊富な経験により獲得されることが示唆された。</p> <p>参考文献： 長谷龍太郎・山田孝：作業療法における臨床的リーズニング概念の活用に関する文献的研究。日本保健科学学会誌 9(4), 256-267, 2007 長谷龍太郎・山田孝：脳性まひ児に対する作業療法士における臨床的リーズニング区分の研究。日本保健科学学会誌 10(2), 101-114, 2007</p>	